

### 1 後期計画の見直し策定

本計画は、「いわて県民計画」(平成21年12月策定)及び「農林水産技術立県いわて技術開発基本方針」(平成22年3月策定)に基づき、林業技術センターが平成26年度から平成30年度までの5年間で取り組む必要がある具体的な研究開発課題等の実施計画について策定したものです。

今回の実施計画の策定(以下「後期計画」)は、これまでの平成21年度から平成25年度までの前期計画を見直し、社会情勢の変化や林業関係機関・団体等からの研究開発の要望などを考慮して、林業分野の5つの基本方向に基づき継続的に取り組む課題、新たに取り組むべき課題を整理したもので、これにより計画的かつ効率的に実施していくものです。

### 2 後期計画の概要

後期計画の研究課題は、合計15課題で、新規5課題、継続10課題に取り組み計画となっています。(課題一覧表を参照)

平成25年度までの研究開発は、平成23年の東日本大震災津波の発生後、三陸沿岸の防潮林の消失、原発事故に伴う放射性物質問題の発生により、防潮林の再生と原木しいたけの出荷制限解除が緊急課題となり、研究の重点課題が見直されました。これにより平成24年度からは「防潮林再生緊急調査事業」を、平成25年度から「林内放射性物質モニタリング調査事業」を組み入れましたが、引続き重点課題として、本格復興に向けた成果の情報発信を行っていきます。

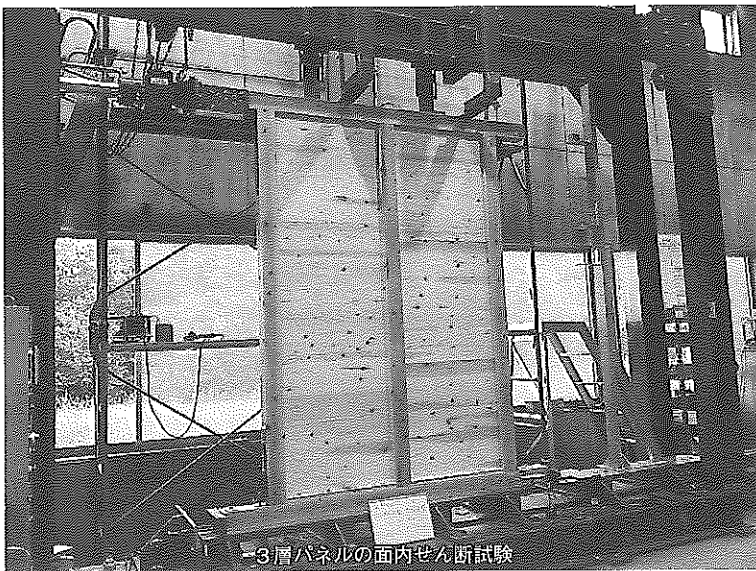
次に、今年度から実施する木材関係の新規2課題では、県産材を用いた住宅用床・壁組構造材としての3層パネル(写真)や新たな大型木造建築材料として期待されている直交集成板(CLT)などの技術開発として、「県産製材品の住宅用床・壁組への利用技術の開発」と、「アカマツの用途拡大のための活用技術の開発」に取り組んでいきます。

さらに、長期的な取組が必要な課題として低コスト育林の開発では、「コンテナ苗等を活用した育林初期経費の低減技術の開発」と「カラマツ下刈回数削減技術の開発」を、

育種関係では、カラマツ苗の需要増に対応するための「カラマツ優良種苗の安定生産に向けた技術体系化」、優良品種開発のための「マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発」や「スギ花粉等多様な形態の家系評価と検定技術の開発」に取り組みます。

また、平成25年度に大発生が確認された大船渡地区のナラ枯れの防除対策を中心に、カイガラムシ被害対策等と併せて「広葉樹被害の実態把握と防除技術の開発」に取り組むとともに、松くい虫被害の北上や拡大防止のための防除技術の指導・支援をしていきます。

また、平成27年度以降の新規課題として、木質バイオマス発電への木質燃料供給の円滑化を図る「木質バイオマス発電等への低コスト供給システムの解明」やシイタケや木炭の原木、紙パルプ資源など持続的な広葉樹資源活用のための「広葉樹資源の



「3層パネルの面内せん断試験」

また、平成27年度以降の新規課題として、木質バイオマス発電への木質燃料供給の円滑化を図る「木質バイオマス発電等への低コスト供給システムの解明」やシイタケや木炭の原木、紙パルプ資源など持続的な広葉樹資源活用のための「広葉樹資源の

岩手県林業研究開発実施計画（課題一覧表） 計画期間：平成26年度～平成30年度

No.	林業技術開発の基本方向	区分	課題名	実施期間(年度)	H26	H27	H28	H29	H30
1	低コストで持続可能な森林経営を支援する技術開発	継続	コンテナ苗等を活用した育林初期経費の低減技術の開発	H21-30	→	→	→	→	→
2		継続	カラマツ下刈り回数の削減技術の開発	H25-27	→	→			
3		新規	広葉樹資源の有効活用に向けた更新育成技術の開発	H28-30		●	→	→	→
4	県産材の需要拡大のための多様なニーズに対応した高付加価値化技術の開発	新規	県産製材品の住宅用床・壁組への利用技術の開発	H26-29	●	→	→	→	→
5		継続	針葉樹大断面製材の乾燥技術の開発	H24-26	→				
6		新規	アカマツの用途拡大のための活用技術の開発	H26-30	●	→	→	→	→
7	特用林産物のブランド化を支援する栽培技術の開発	継続	原木シイタケ安全安心栽培技術の開発	H23-30	→	→	→	→	→
8		継続	林内放射性物質モニタリング調査事業	H25-29	→	→	→	→	
9		新規	簡易感染診断技術を活用したマツタケ林地導入技術の開発	H27-30		●	→	→	→
10	環境と調和した豊かな森林づくりのための技術開発	継続	広葉樹被害の実態把握と防除技術の開発	H23-30	→	→	→	→	→
11		継続	防潮林再生緊急調査事業	H24-28	→	→	→	→	
12		新規	木質バイオマス発電等への低コスト供給システムの解明	H27-29		●	→	→	
13	高品質で付加価値の高い優良品種等の開発	継続	マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発	H5-30	→	→	→	→	→
14		継続	スギ花粉等多様な形質の家系評価と検定技術の開発	H12-30	→	→	→	→	→
15		継続	カラマツ優良種苗の安定生産に向けた技術体系化	H24-30	→	→	→	→	→
計			※ 実施年度の●は新規課題	15課題	12課題	13課題	13課題	13課題	9課題

有効活用に向けた更新育成技術の開発」などについて、緊急性等を勘案しながら取り組む予定です。

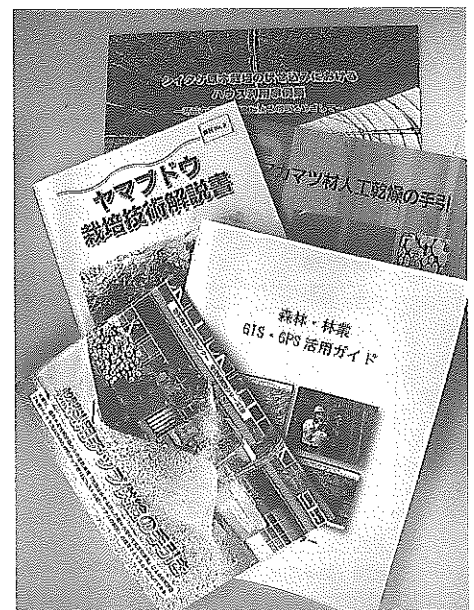
### 3 推進体制と成果発信

現在、研究部では、8名の専門研究員が研究課題に取り組んでいます。また、震災復興関連の課題については、センター内に大震災津波復興支援チームを設置し、企画・普及・研修部門とともに本庁・現地機関と連携して取り組んでいます。

研究成果は、「研究成果速報」や「林業技術情報」等で随時中間報告を行い、今年度終了となる「針葉樹大断面製材の乾燥技術の開発」は、「技術解説シリーズ」の普及用パンフレットとして取りまとめる予定です（写真）。また、

岩手県林業技術センターのホームページでも研究成果を公表していきますので、日頃の業務等にご活用ください。

このほかにも毎年2月上旬に開催する研究成果報告会での発表やパネル報告、「研究報告」の論文



や各種学会等での発表による情報提供を行っています。

なお、研究開発実施計画については、毎年度林業関係団体や行政機関から要望調査を行い、「林業研究開発調整会議」において調整し、必要に応じて見直しを行いながら実施していきます。今後とも現場ニーズに可能な限り対応しますので、要望・意見の提供をよろしく願います。

岩手県林業技術センター

研究部

019(697)1536